慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	副腎髄質剔除ラットにおける血中ACTHの変動
Sub Title	
Author	木村, 都(Kimura, Miyako) 小野, 純子(Ono, Junko) 小池, 敦子(Koike, Atsuko) 中村, 悦郎(Nakamura, Etsuro)
Publisher	共立薬科大学
Publication year	1978
Jtitle	共立薬科大学研究年報 (The annual report of the Kyoritsu College of Pharmacy). No.23 (1978.) ,p.135- 135
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	学会講演要旨
Genre	Technical Report
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00062898-00000023-0139

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

副腎髄質剔除ラットにおける血中ACTHの変動

木村　都，小野純子，小池敦子，中村悦郎

〔第59回日本薬理学会関東部会　東京（1978年11月）で発表〕

副腎皮質機能はＡＣＴＨにより主に維持支配されている。また，ストレッサーの影響は下垂体―副腎皮質系機能に関連していることもよく知られている。副腎皮質機能の研究の一手段として，副腎髄質剔除が行われる。しかし，その手術のために副腎はＡＣＴＨの影響を受けているといえる。今回，我々は副腎髄質剔除ラットの術後の血清中のＡＣＴＨ量を経日的に測定して，手術後の回復を観察した。

実験には健康なＳ．Ｄ．系雄性ラットを用い，９週令前後でエーテル麻酔下に背部より切開し，副腎髄質を剔除して，温度22±２℃，湿度55％の空調室で人工照明下（６：00～18：00点灯），固型飼料と水を自由に摂取させて飼育し，充分ハンドリングをした状態で実験に使用した。ＡＣＴＨの日内変動をさけるために，午前10時から10時30分の間に断頭した。血清中のＡＣＴＨの定量はＡＣＴＨをQuso G-32に吸着させ，アセトン酢酸溶液で抽出し，副腎遊離細胞を用いてcorticosteroneの産生を指標とするSayers-森田らの方法によるbioassayによった。

正常なラットの血清中ＡＣＴＨ量は約５～10pMであった。副腎髄質剔除ラットの血清中ＡＣＴＨ量は手術直後に上昇し，術後30日では皮質重量はむしろ増加している傾向を示すが，血清中のＡＣＴＨ量は約10pMと正常域に回復していた。従って，術後30日で実験に使用できることがわかった。

副腎髄質剔除ラットの寒冷ストレス時の副腎皮質内cyclic AMPの変動

小野純子，小池敦子，木村　都，中村悦郎

〔第59回日本薬理学会関東部会　東京（1978年11月）で発表〕

ＡＣＴＨにより副腎中のcyclic AMP量が上昇することは数多く報告されている。また，ストレスによっても副腎中cyclic AMP量の上昇が認められている。一方，松葉らにより副腎遊離細胞を用いた実験でcyclic AMP量はＡＣＴＨの濃度が10^{-9}M以上で急激な増加を示すことが報告されている。しかし，生体内では強度のストレス下でもＡＣＴＨ量が10^{-9}Mを超すことは少ないといわれている。この点から，我々は副腎髄質剔除ラットの皮質中のcyclic AMPの寒冷ストレス下における変動について検討した。

実験には健康なＳ．Ｄ．系雄性ラットを用い，９週令前後でエーテル麻酔下に背部より切開し，副腎髄質を剔除して，温度22±２℃，湿度55％の恒温恒湿度室で人工照明下（６：00～18：00点灯），固型飼料と水を自由に摂取させて30日間飼育し，充分ハンドリングをした状態で実験に使用した。ＡＣＴＨの日内変動をさけるため，午前10時から10時30分の間に寒冷ストレスとして４℃に15分間あるいは30分間曝露直後に断頭し，すみやかに副腎を取り出して0.２秒間microwave（1300W）を照射して内在酵素の活性を止めた。Cyclic AMPの定量はradioimmunoassay法